

交流の成果を披露しながら記念写真に納まる、南ユタ大生と
県立大生ら。松江市浜乃木町7丁目、県立大松江キャンパス



米学生招き4年ぶり交流

島根県立大5類移行で再開

観光やあんどん作り楽しむ

島根県立大学と米・南ユタ大学の学生の対面交流が4年ぶりに再開した。9日、県立大松江キャンパス(松江市浜乃木町7丁目)で両大学の学生22人が、松江水燈路で飾るあんどん作りなどを通じて交流を深めた。(林李奈)

交流は、ユタ大の教員が教員交換事業の一環で県立大に訪問したのがきっかけ。2009年から毎年南ユタ大の学生を招いていたが、新型コロナウイルスの感染拡大で19年を最後に途絶えていた。

新型コロナウイルスの法的な位置付けが5月に「5類」に移行するのに合わせて関係者が調整。県立大として4年ぶりに島根に学生を招いての国際交流が実現した。

8日に出雲大社や堀川遊覧船などの観光を楽しんだ南ユタ大の学生は9日、美術教授の指導の下であんどんの絵付けに挑戦。県立大の学生に墨や毛筆の扱い方を教わりながらサボテンやウサギなどを思い思いに描き作品を完成させた。

初めて来日した南ユタ大学のキンバリー・キント

あんどんは今秋の松江水燈路で飾り、動画や画像で成果を共有する。

島根県立大就職率99%

22年度 県内は5.8ポイント減の43.7%

島根県立大(本部・浜田市野原町)が12日、今春卒業した学生の就職率が前年度(2021年度)と比べ0.6ポイント増の99%だったと発表した。高水準を維持できたとし、要因には県内外の企業求人増加傾向に加え、大学が手がける長期インターンシップ(就業体験)

制度など、就職支援の成果を挙げた。

県立大が50%以上を目指す島根県内への就職率は、浜田、出雲、松江の3キャンパス合わせて43.7%。前年度比で5.8ポイント減だった。県立大は入学時点の県内出身者が、前年度と比べ少なかった影響とみる。

20年度の38.2%からは伸ばし40%台は2年連続。山下一也学長は県内への就職率向上には、県内高校生の入学者増が鍵だと述べ「県内企業や高校とさらに連携する必要がある。学校推薦型入試の強化も検討したい」と話した。

(宮廻裕樹)